



第 44 号

< 発行 >
 仙台市立小中学校
 事務研究会
 < 編集 >
 広報部

目次

- 1 ~ 副会長挨拶
 2 頁・参与挨拶
 2 ~ 研究大会
 3 頁 レポート
 3 ~ 新設校紹介
 4 頁 愛子小学校
 5 ~ 共同実施
 6 頁 レポート
 6 頁 編集後記

平成二十一年度を

振り返って

副会長 小笠原 律子

早いもので、今年度もあと少しとなりました。

今年度市内五グループで構成する共同実施試行が始まったことは、非常に意義のあることだと思えます。

私が初めて共同実施という言葉聞いたのは、平成七年度の全国大会岐阜大会のことでした。唐突な登場に驚きながらも、単数配置が故に権限が付随してこない状況から、近隣数校をグループ化し、その中の一人に権限を与えていくというものでした。

次に耳にしたのは、平成十年度の中教審答申で「事務の効率化を図るために共同実施の手法が取り上げられていました。その後の定数改善で、全国で様々なパターンの共同実施が出現したことは、皆さんすでにご存じのことだと思えます。僻地が多く、未配置校の補助的な

役割を担おうとした高知県。スクールサポートシステムで、学校施設の保全や児童生徒用図書巡回など、これまで携わったことのない分野での取り組みを行っている宮崎県。学校事務支援センターで校納金の取り組みをしている八戸市など、本当に様々な形態があります。

では仙台市ではどうでしょうか五グループにそれぞれ与えられたテーマに沿って、半年間検討を加えてきたわけですが、仙台市の形態は「標準化」にあると思えます。どの学校に行っても同じ事務処理の仕方が確立すれば、事務職員にとって、異動したときに困ることはありません。

しかし標準化の意義は、私たちだけでなく、周りの教職員の事務の標準化を図ることに結びつきます。仙台市が目指す子供の学力向上への取り組みの一翼を担えます。

以前勤務した学校で、異動直後予算執行の仕方を変えたところ、ある先生から「何で事務の人が変わると

仕事の仕方が変わるの」とややヒステリックに言われたことがありました。事務職員だけでなく、教職員にとっても大きなストレスになっていたのかもしれない。

子供と教師の向き合う時間を保障していくことは、仙台市事務研究会のサブテーマである「子供の学びを保障する」そのものだと考えます。

標準職務と職務の拡大については、近い将来決意するときに来ると予想されます。要は本質を捉えて実をあげていくことです。

これは以前からお話ししている持論ですが、

・研修・研究・実践・法整備
 この四つがリンクしながら発展していくことにより、学校事務という職が成長していくことにつながると考えています。

平成二十二年度には、仙台市で初めての新規採用者が学校に配置されます。その方々とともに仙台市事務研究会が成長できるよう努力することが私たちの努めと考えます。

行政のプロへの期待

参与 阿部(藤伸山)中

事務研究会の会員の皆様には、学校運営にあたり、日ごろ、教育活動の基盤を支えて頂いています。ことに、まず何より深く感謝いたします。

ほとんどの学校において、単数配置・一人職種である皆様がバリエーションある業務は、配当予算の計画的な執行だけでなく、学校の教育環境を整備する上で迅速さとの確さが求められる重要な業務を様々担って頂いております。

ご存じのとおり、学校は今、保護者・地域の皆さんと協働しながら、子供たちに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体を育み、生きる力」を培っていくことが求められ、学校運営に当たっては説明責任を果たしていくことが大切になっていきます。それを学校事務の視点から捉え直しながら、課題克服に向けて本研究会の各部で互い

に研鑽を積まれていることは、大変意義があり、大切な取組であると受け止めています。例えば、現在モデル事業として取り組んでいる学校事務共同実施もその一例かと考えます。皆様の英知を結集した仙台市のシステムがどのようにランディングしていくのか、大きな関心をもってみています。

皆様には、学校財務マネジメントの立場から、学校経営ビジョンの実現、つまりは子供たちの豊かな成長に向けて、これからも教員と共に学校運営の当事者として、更には行政のプロとして、事務の効率化や標準化、省力化等をはじめとする諸課題の克服に大いに力量を発揮していくことを期待しています。

そして、今後も、学校事務における不易と流行を心にとどめながら、皆様の弛まぬ挑戦と情報発信が更に続いていくことを願っています。



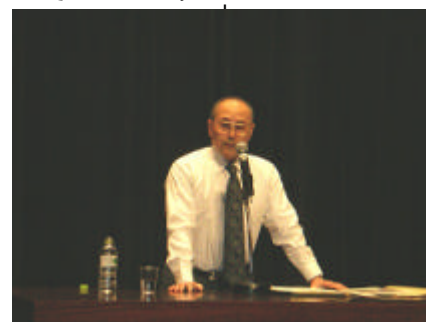
平成2年度第10回仙台市立小中学校事務研究大会

平成二十二年二月四日
仙台市シルバーセンター
において第十回仙台市立小中学校事務研究大会が開催されました。午前中は「学校事務よ、どこへ行く」と題して、学事出版「学校事務」前編集長山口克夫氏から講演をいただきました。山口氏は、一九七〇年に学事出版に入社されてから、四十年間にわたり「学校事務」の編集に携わってこられました。

「学校事務」は世界でも唯一の、学校事務という仕事の専門誌であり、その仕事の特殊性ゆえ、ほかの人がどんなふうに住事をしていくのか、どのように仕事への手応えを得ているのか、それを知りたい人々によって支持され、読まれ続けてきたのではないかとおっしゃっていました。初めて学校での勤務が始まったころ、どんなふうに住事を進めていけばよいのかと悩んでいます。

学校事務という仕事には、特殊性があっても専門性がない、という言葉は仕事を客観的に見ることができ、なるほどと思いました。私たちはいろいろな分野の仕事を受け持っていますが、資格のようなものは必要ではなく、非正規の職員でもよいのではないかと、という見方をされてしまいがちです。事務職員という職種の成り立ちも、最初は教員の仕事の補完というところから始まりました。宮城県には職務表もなく、職務内容が明確になっていません。

学校で必要な仕事として存続するためには、今のままでは限界があり、共通化を図れるところを探して効率を上げ、教員の担っている仕事も担当していこうという試



みが各地で始まっています。

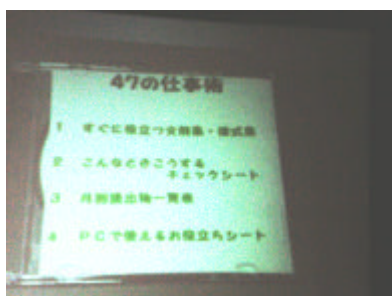
長い間学校事務について研究され、さまざまな実践や各地の共同実施もご存知の山口氏に講演をいただいたのは大変貴重な経験でした。仙台市でも五つのグループによって共同実施の研究が進められています。もっと手を広げ、学校と子どもたちのために何ができるかを考え、学校にいらなくてもない存在で居続けるために努力していかなければならない、と今後の事務職員のありかたについて考えさせられました。

青葉地区研究発表

四十七の仕事術

日々の仕事を効率的にこなす方法

研究大会の午後、青葉地区の発表が行われま





本校は 仙台市の西部 県道愛子秋保線と国道四十八号線が交差したところに位置する

仙山線落合駅、愛子駅の整備とともに、錦ヶ丘団地の開発により児童数が増加した母体校広瀬小学校から平成二十一年四月に分離し、百一四番目の市立小学校として開校した。

学校南側には御殿山や蕃山等の里山と月山池や斉勝沼があり、学区の北側には清流広瀬川が流れる自然豊かな地域である。また、学区内には平成二十年七月に開校した仙台市天文台や、諏訪神社など文化的歴史的施設も揃う。

学区は、二岩や上町地区の歴史ある地域と新興住宅地の錦ヶ丘地区から構成され、歴史と未来を織り成す地域である。愛子駅前という立地条件と、四十八号線の整備から今後の発展も予想される。

平成 2 年度第 10 回仙台市立小中学校事務研究大会

した。青葉区では、日々の仕事を振り返り、付箋をきつかけにして、数年にわたり研究を進展させてきました。四つのグループに分かれ、すぐに役立つ文例集・様式こんなときこうするチェックシート 月別提出物一覧表 PC で使えるお役立ちシートの様式等を CD にまとめ、昨年度末青葉区の会員に配付しました。また、青葉区では会員全員が総務部・広報部・研修部・調査研究部に所属しているため、各部相互のチームワークもかなりのものと言えます。研修会というと、なかなか参加しない（できない）会員もいますが、まずは出席した会員に満足してもらおう、研修会に参加してよかったな！と思える会にしたい、との研修部の言葉がとても印象的でした。実務的な内容で非常に参考になり、すぐにでも仕事に役

立てたいと思いました。発表の終わりに「スイミー」の物語に触れ、事務職員をスイミーに例えたのが良かったです。それぞれみんなの仕事術がスイミーのようになってみんなが協力すればなんでもできる。スイミーの目になるのは事務職員だよ、と。

泉地区研究発表

ゴム印を押さなくても事務はできる
児童・生徒データファイル作成を通して

泉地区事務研究会では、平成十八年度より、事務職員のデータ処理による効率化だけでなく、学校全体として児童・生徒名簿等のデータを共有していけないかとの意見について、話し合い研究をすすめました。

その中で「児童名簿管理五・八フアイル」



と出会いこれを研究のベースとしまし
た。一つの名簿データから

在籍管理・クラス名簿・緊急連絡網・校納金への活用等、その適用範囲の広さが、実際のパソコンの画面を使って紹介され、その処理能力に驚いた方も多かったのではないだろうか。また、課題となる個人情報保護や、データ管理の校内体制を確立することの必要性を示しました。

四年間かけて区として取り組んだ研究が「こどもの学びを保障」し、こども達の笑顔へとつながる事を願い、研究の中心となり引張ってくれた研究部の方々に感謝した一日でした。



校章について



校章の輪郭を形どる山々は、蕃山をはじめとした丘陵を、中央の二つの円は

そこから流れ出る小川と広瀬川、そして、中心部の緑は豊かな田園を表す。さらに中央には未来への希望と限りない探究心の象徴として愛子の夜空にさん然と輝く星を描いている。

これらの豊かな自然は、子どもたちの豊かな心の源である。

校章は、これらの『丘陵』『川』『田』『星』をモチーフに、子どもたちの健やかな成長を願って図案化されたものである。

～平成二十一年度学校要覧より～

校歌について

みて 小さな星のきらめきを

銀の河となって宙(そら)にひろがるよ

ひとりじゃない わたしたち

(星空米)

特色

ひとみとひとみに ひろがる未来
きいて やさしい小川のせせらぎを
愛子の野をめぐり虹をかけるよ
ひとりじゃない わたしたち
えがおとえがおに ふくらむ希望
いつかの涙 明日のほほえみ
大切な言葉心に刻んで
夢の地図をえがこうよ

校歌の特徴は 作詞作曲が 愛子のわたしたちだということである。歌詞は校歌に入りたい言葉を児童と保護者・地域の方々から募集したことから始まり 作曲は 児童が口ずさんだメロディから生み出された。また、従来の校歌とは違った新鮮さを取り入れるために、歌詞にはあえて学校名を入れず、そのかわりに愛子の情景を入れた。校歌には珍しい八分の六拍子にし現代的な曲調となっている。

< 収穫の様子 >



本校校地内には田んぼがあり、平成二十一年五月上旬、市教委施設課による田おこしに始まり、地域の方

々のご協力のもと、平成二十一年五月十八日、五学年児童、教職員、地域の方々での田植え以降、除草、肥

草、肥料入等の作業を経て、平成二十一年十月五日に稲を

刈り、天日干しをし、十月三十日の脱穀では、約百八十kgの収穫があった。

収穫した米は『星空米』と名付け、五年生児童、保護者、ボラ



ンティアによる収穫祭があり、平成二十一年十二月二日には、全校への給食にも登場した。すばらしい食味で、超一等米といっても過言ではない。



(愛子こどもの森)

校地西側に広大な私有地の森が約一万四千㎡ある。地域町内会、PTA等の絶大な支援のもと、平成二十一年十一月十九日上町南町内会長、愛子小学校PTA会長、愛子小学校校長三者が借受人となり、地権者の皆様のご協力により、森をこどもたちに解放、愛子こどもの森が誕生した。

現在、地域が主体となる名称「森の応援団愛子ハグリッツ」が開設備をしている。森にびびく元気な子どもたちの声がきこえてくるようではありませんか。



昨年度のモデル実施に続き、対象を全区に広げての共同実施試行がはじまりました。業務の多忙化が進む学校現場において、それらを改善するために、私たち事務職員にかかる期待は大きく、共同実施試行によって、将来の展望を模索する各地区グループの様子をレポートしました。近い将来全ての事務職員に関わってくる可能性もあるのをご確認ください。

青葉地区グループ

一月二十二日、青葉区の共同実施の会議に出席させていただきました。

青葉地区グループ

では、「学

校納付金」

をテーマに

研究を重ね

ており、二

十二日の会



議では、なごやかな雰囲気の中、学校納付金に関する様式の検討を行っていました。市教委が出した学校納付金取扱事務の手引き」と照らし合わせながら、丁寧に一つ一つ確認をしていました。また、学校納付金に関する疑問などを Q & A 方式の文書で作成中で、先生方が見てもわかりやすいよう工夫をこらしていました。中には私もぜひ使わせてもらいたい！と思うものがたくさんありました。事務局校に配置されている事務補助員の活用ですが、青葉地区グループでは月ごとに決定することになったっており、PC や事務室がある等条件のそろった学校に輪番で回っているとのことでした。何曜日は学校、というように決めてはいるけれど、臨時に来て欲しいという要望にも応えられるということです。また、学校によって事務補助員さんをお願いすることも様々だそうです。

(物購処理 破棄文書のシュレツダー処理等々)

太白地区グループ

太白区では、茂庭台中を中心として、共通アプリを使うことによる

効率化を柱に共同化について試行中でした。話し合いに時間をかけず、事務局校の方が各校を回りアプリをインストール、各校担当が使用することで、改良点や問題点を挙げてもらうスタイルをとっていました。

アプリの内容は、給与関連、旅費、就学援助物購印刷切手受払、銀行入出金票印刷、備品管理、用品会計請求、用品インデックスにプリントするツール、灯油管理、施設修繕依頼書、予定表書き込みカレンダー等々、いろいろ改良を加えられたもののようで、今後は給与名簿の改良を行うそうです。

このようにアプリの各校へのインストール作業にしても改良作業も膨大な労力です。補助員の方に事務局校専属で本務の業務を手伝っていただいてるのが現状のようです。

制作している事務局校の方だけでなく、補助員の方の労力も含め作っているアプリも、各校現行使い慣れたソフトが優先になり、なかなか足並みが揃わず、効率化につなげるには困難の様子。またアプリを取り入れるにも、教育委員会各課の強力な協力体制も必要不可欠な要素、と課題が挙げられています。

宮城野地区グループ

十月下旬より二月末までの間に、六回のグループ内事務職員会を、学校訪問を兼ねて、各校を会場に実施。就学援助事務の効率化について課題を出し合い、その具体的な解決策について検討しています。例えば、事務処理に必要な共通ワークシートを作成、銀行振込票の電子化等、地区の事務職員に実態把握のアンケートを実施し、検討を行っています。

事務補助員の活用については、事務局校以外の希望校二校を週一回曜日を決めて配置し、物購の処理、文書受付、校納金関係等業務の補助をお願いしています。これらの課題として、現在取組中の共通ワークシート」を今後も改善し、全市的に使用できれば、共通化・一元化した事務処理が可能となり、業務の効率化になると思います。しかし、メンテナンスやヘルプデスクなどという課題があります。就学援助に限らず、この事業を統括する組織的なものがないと、将来諸案の実現や維持は難しいのではと考えます。

若林区地区グループ

若林区の共同実施試行グループは、南材木町小を事務局校とし他行政区を含む近隣の小中学校十一校で構成されています。事務局校には事務補助員が一名配置され、文書收受、物購処理、旅費事務などの仕事に従事しています。

若林区では「事務のしおり」HTML版 事務便りの作成を中心に取り組み、教員への情報提供による意識の共有化をねらいとしました。事務のしおりは教職員に知っておいてもらいたい事務手続きやいろいろな様子を網羅しており、CDRに入れ配布しました。校内LANの職員共有フォルダに入れることで、各自の机上パソコンから見る事ができるようになっています。

「事務便り」は、時期に応じたお知らせ、給与などの解説、効率のよい印刷方法



や節約術、省エネ方法の紹介などを載せており、各校共通で配布します。

これらについて、先生方からの意見をもらうためにアンケートを実施し、内容の充実や利便性、事務の効率化につなげていきたいと考えています。

また、教育指導課情報推進係との研修会を行い、校内LANを活用した事例などについても教えていただきました。

泉地区グループ

泉区では将監東中を事務局校として九校で試行が行われました。今年度の共同実施について、事務局校に伺いました。

話し合う上での検討課題は、学校事務の効率化の推進（各学校の事務処理の仕方を交流し合い効率的な事務処理法を探り、各学校で実践する）事務処理の平準化（各学校での事務処理の仕方をできるだけ統一化し学校が変わっても同様の処理ができるようにする）教員の事務負担軽減についてなどでした。

補助員の方は、各学校を定期的に

巡回し、物購の処理、年末調整の書類の整理、廃棄文書のシュレッダー作業、出勤簿の整理、児童名簿管理五・八ファイルの入力作業等の補助的作業を担当しました。

内容的には、事務効率化研究チームという感じの、情報交換や研修を行っているため、ネーミングを変更したほうがよいのでは、と思われるということです。

月二回程度、一緒に情報交換や研修をする事で、他の人の処理の仕方を知ることができ、また事務の改善に活用できたので、普段一人職の私達が定期的に集まる事で、よい知恵が生まれ、なおかつ精神的にも良かったとのことでした。

編集後記



昨年の夏に思わず猫を拾ってしまいました。道路上で車が怖く固まって動けないので、たからです。

その後里親を探しましたが見つからず、とうとう我が家の家族になつてしまいました。なかなか愛嬌のある、頭の良い猫です。ドアを自分で開けるんですよ。（反対に閉めることはできませんが。）以前から飼っている犬三匹と仲良く共同生活をしています。（八巻）

我が家の地区の子ども会も総会を間近に控え役員の役目も終わりが見えてきました。ということはやつと春がくるのですね。我が家にも、ちよつとびり庭つばいものがあり、今季はいろいろ植えてみようかなと考えています。（武田）

話題の「アバター」を満席のため3Dを前から二列目の席で観ることに。予想通り、途中目が回り、気持ちが悪くなり、時々メガネを外しながら無事最後まで。次の日外国で映画を観て具合が悪くなり、亡くなった人が、というニュースにドキリ。でもせっかくの感動作、後ろの席でリベンジしようかと考え中です。（佐々木）

私の大好きな動物カピバラについて語りたいと思います。カピバラは世界最大のねずみで、ハムスターを特大にしたような姿、「カピバラさん」というキャラクターグッズにもなっている人気動物です。我が家は一家そろってカピ巴拉好き。昨年はカピ巴拉ファンの聖地といわれている長崎バイオパークまで行ってきました。ここではカピ巴拉が放し飼いにされていて、自由に触ったりえさをあげたりすることが出来ます。のんびりと穏やかな姿、究極の癒しです。今度は、温泉に入っているカピ巴拉を見に行きたいです。（小川）みなさん広報部お疲れ様でした。とても楽しく活動できました。

発行が大変遅くなり申し訳ありませんでした。楽しい紙面を心がけて続けてきました。またどこかでお会いしましょう。（桑原）